

カラフルな社会を 目指して。

小学校教員 ころろアシスタント
健康ラーメン研究家 菅野 静華

プロフィール

小学校教員10年目。

担任経験を経て、

現在は特別支援教室の担当。

今までに200件以上の保護者や子どもの相談にのり、サポートを行ってきた。



**そこで見えてきた
大きな問題**




本当は
カラフルな子どもたち



今の日本教育





**一色に染まる
教育**

学校が楽しくない



疎外感を感じる



いじめにあう

順応できない子供たち

こころが
疲れてしまう

結果として



登校しぶり



不登校・引きこもり



非行に走る

保護者へ与える影響



疲れてしまう



夫婦の仲が悪くなる

最悪の場合、家族がバラバラになることも。



私自身も同じだった。

子供のころから注意力がなく、よくふざけていた。
周りから「変わってるね」といわれることも多かった



高校生になると、クラスになじめず、
学校にいかないで、趣味のあう友達と遊んでいることもあった



大学生になって。


やりたいことをたくさんやった。



【サークル】
立ち上げ
ボランティア
他大学との交流
旅行
など



【アルバイト】
ポケモンセンター
アパレル販売員
メイド喫茶
など



自分の強みを活かして、
仕事をしよう！
そう思っていた・・・。

しかし、現実には・・・



指導される毎日



仕事に行きたくない
と思うことも多かった

そして・・・いつの間にか。

個を見ない全体を考えるだけの教育をしていた。

先生だから。

大人になると、困るから。

社会に出ると順応しなきゃいけないから。



ブラジルへ行って



いきいきとした
子どもたちに出会えた。



子どもだけではなかった。

大人も全力で楽しんでいた。

それが許される

カラフルな国だった。

**やっぱり個性を活かした
教育が必要だ。**



人生は一回しかない。
自分らしく生きたほう
がいい。

帰国後、日本の教員復帰。




厳しいルールの数々

持ち物の指定

遊びの制限



違和感を感じながらも、
学校のルールだからと
教える自分がいた。



**気づいた時には、
うつ病に。**

しばらくは、何もやる気が起きなかった。

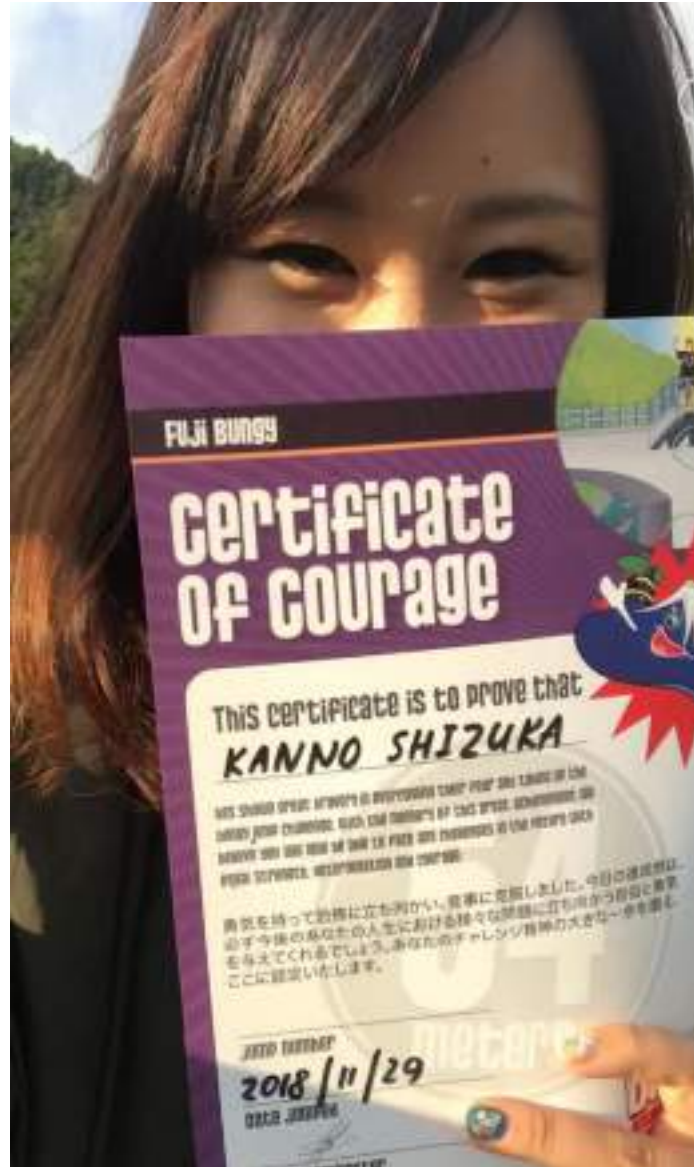
様々な経験と環境のおかげで、少しずつ立ち直ることができた。



旅行



友達



バンジージャンプ



家族



よさこい

**人と話す大切さや
環境の大きさを実感した。**

同時に、かかせないものがあった。
それは・・・

ラーメン だった。



思い返せば、、、

幼少期から、ファミレスにいくとラーメンを注文。

高校・大学時代はおいしいラーメン屋を友達とめぐる日々。


社会人になっても、

ブラジルでも、

ラーメンをたべつづけていた。

**ラーメンは
私の元気の源だった。**





**その数は、はかりしれない。
年間にすると、
およそ250杯ほど食していた。**

自分らしく、
自分が好きなことをして
好きなものを食べて生きることが
どれだけ健康にいいかが分かった。

失っていた自信がもどりはじめた。



しかし体は太ってしまっ一方。



心が満たされても、
体が太っていると
なんだか満たされない。

-8キロの減量に成功。



見た目でも、自信がとりもどせた。

**教員再スタート。
特別支援の担当に。
保護者とのかかわりが増えた。**



虐待のある家庭



夫婦仲が悪い家庭



貧困の家庭

様々な問題のある家庭を対応することにより。



相談に乗る



一時的には元気



根本が解決しないため
落ち込む。

家庭への訪問



学校の限界

教員・ソーシャルワーカーともに
拒否されてしまうことも
少なくない

このどうにもならない家庭を救うには
どうしたらいいのだろう・・・。



**困っている家庭を
元気にしたい！！！！**

そうだ！
健康ラーメン屋
をやろう！



提供できるものは

- 心(元気)
- 食(健康ラーメン)
- 環境(居場所と話し相手)

どんな家庭にも…

子ども食堂で
子供は**無料**に！

貧困層の家庭にも
来やすい環境



健康ラーメンや健康定食で・・・



体が元気に



見た目が美しく



健康体を維持

落ち着いた環境で

安心できる場に



交流会・
ミニイベント



相談



否定されない場所

私の両親

父：社会人になり、お金を貯めた後は、
寿司屋を開き、チェーン展開する。



母：子供のころは、ラーメン屋(叔父)
の家で育てられていた。
料理が好きで、すし屋の後はカフェを
経営していた。

両親が寿司屋のころ

- ・ 小学校のころから店に立ち手伝いしていた。

話がしたくて毎日
来るお客さん



おいしいと
笑顔になる
お客さん

寿司屋で
幸せそうになる人たちを
たくさん見てきた。





だからこそ…
飲食で
たくさんの人に元気を
提供したい



最初に話したように…

**個性も教育の世界では
なかなか認められない時代**




だと思っています。



とあるラーメン屋さんで

**誰もがすべてを受け入れられて
心も体も元気になれたら・・・**



未来は少し
カラフルになる
気がする。



**私は、ラーメンやになって
そんなお手伝いがしたいです。**

菅野静華